

カンマーマン とびっくす



vol. 28

2019年中春号 かんま進後援会連合会

“3.11”～あの日から八年、新しい時代へ!～

拝啓 春暖の候、皆様方には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

今年はこの4月30日に今上天皇の「退位の礼」が行われ、「平成」の時代が終わり、5月1日には新天皇が「即位の儀式」を行い、新元号の時代が始まります。

皆様にとって「平成」という時代はどんな時代だったでしょうか。

私は平成3年に仙台市議選に出馬、初当選させて頂いたのが40才の時でありました。

30代後半で平成が始まり、平成の大半を地方議員、宮城県議会議員として、「平成」の時代と共に歩めたことは有難いことと、感謝の念を抱いております。

しかしながら平成23年の東日本大震災は宮城・仙台だけでなく、我が国にとっても大災害であったことは言うまでもありませんし、振り返れば阪神淡路大震災、新潟県中越地震、熊本地震などの地震災害を始め、台風、大雨等による災害も数えたらきりが無いほど起きた「平成」でもあり、災害の多い時代であったことは否めません。

「平らかに成る」という意味の「平成」には、平和が達成されるという願いが込められており、「昭和」の時代前半の戦争が続いた時代に比較すると、願い通りに「平和」を多くの国民が感じた時代でもあったかと思えます。

新しい元号「令和」の願いが叶うような時代になることを祈り、5月1日からの新しい元号の時代を夢と希望をもって迎えたいものです。

さて、足元を見ると新年度は東日本大震災3.11からまる8年が過ぎ、宮城県の復興計画10年の仕上げの期間「発展期3年間」の2年目に入ります。

この紙面で、ほぼ毎回報告させて頂いている復興の一つの目安、仮設住宅戸数

とお住いの方々ですが、お陰様で2月末時点で340戸、718人までになりました。

一番多い時、H24年4月時点では4万7,861戸の仮設住宅に12万3,630人の方々が住んでいらっしゃったので、8年間の復興への進捗を感じます。

しかしながらハード整備は進むものの「心のケア」や「地域のコミュニティ再生」などのソフト面の課題や福島第一原発から放出された放射性物質で汚染された稲わら等の処理、処分の問題など、残された2年間で復興計画完遂は難しいと思われれます。

もちろん完遂できるよう最大限努めることが基本ですが、国においても復興基本方針の改定で明記した復興庁の後継組織について、復興・創生期間(2016～20年度)終了後の支援を巡り、被災自治体と具体的な協議に入る考えを示した事は心強く思うところです。

又、基本方針には2020年度までの目標として、宮城・岩手の仮設住宅の解消や東北6県の遅れているインバウンド、外国人延べ宿泊者数を約120万人(2018年)から150万人に増やす事なども挙げられており、宮城県議会としても、地方創生の施策活用を促し、被災者の心のケアや産業再生への支援など、持続可能な地域社会づくりを国・県・市町共々、図って行かなければならないと思っています。

さて目を転じ、ポスト復興、宮城・仙台的近未来を見通してみると、つい先日、青葉山の敷地造成に着手した次世代放射光施設は、今年度下期には施設建設着工、2023年度の稼働を目指しています。燃料電池やナノカーボン素材など先端技術のほか、創薬などのあらゆる産業の技術開発への活用が見込まれ、施設稼働から10年間の経済波及効果が2,777億円、周辺では企業の研究施設が集積して雇用が増

え、研究者や企業関係者の出張増で宿泊需要も高まるものと思われれます。

岩手県北上への国際リニアコライダー誘致は放射光施設以上に地域経済に与えるインパクトは大きく、宮城・岩手両県議会だけでなく仙台市議会とも連携し要望活動をしてきましたが、この3月、文科省として誘致について結論先送りしたことは残念でなりません。諦めず誘致活動をしていくことが肝心と思っています。

さて、仙台市においては市役所建て替えや音楽ホールの建設、宮城県においても県民会館の移転建て替えなど、ハコモノ的にも大きな事業も抱えています。

経済活性化に戻りますが、急激な人口減少社会を迎える東北、そして宮城・仙台的取り組みべき大きな課題は交流人口の拡大であり、そのキーワードはやはりインバウンドです。仙台国際空港も民営化以降、順調に推移し、今年4月からはくピーチ>仙台～台北線、毎日運航。タイ航空においても11月に仙台便を5年ぶりに再開予定などインバウンド増加が期待されます。

まだ東北では注目されていない10年程前からインバウンドに取り組んで参りましたが、引き続き力を尽くすと共に、宮城県が進める市民生活に直結するインフラ「上工下水一体官民連携運営事業」についても間違いなきよう関わって参りたいと考えております。

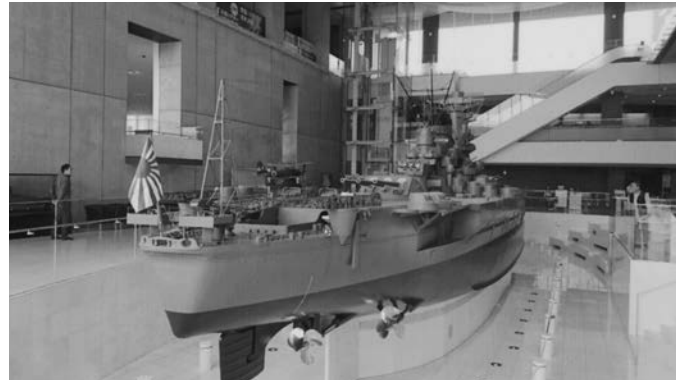
今年度も市民生活に密着した県政を目指し頑張っ参りますので、皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。敬具

記2019. 4. 1

宮城県議会議員 かんま 進

～ 調査活動・諸行事への参加～

《会派県外調査 広島県呉市、岡山県真庭市・西粟倉村、神戸市、東京都》



<30.11.31～12.2>

- サン・ファン・パウティスタ号復元船は腐朽等で2020年東京オリ・パラ大会以降、解体との県の方針があり、その後のあり方について先駆的に又、入場者数も多い呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)、神戸海洋博物館(ロドニー号展示)を調査。
真庭市ではガバメントクラウドファンディングで田舎家を改築し、外国人が長期滞在する「インターナショナル・シェアハウス“テ(照)ラス”」、環境モデル都市・西粟倉村では再エネ自給率100%を目指しての実践を調査、東京では移住定住支援について「ふるさと回帰支援センター」調査、時事通信社自治体インバウンドセミナーも受講しました。



- サン・ファン号存続議連有志でサン・ファンパーク視察。ライトアップは見事でした。 <30.11.19>

《東日本大震災仙台市追悼式 及び宮城県庁玄関前》

- 今年の仙台市追悼式は若林区文化センターにおいて開催。仙台フィル四重奏による献奏に始まり、政府主催追悼式の同時放映と黙祷、引き続いての仙台市の式典となりました。合唱連盟わかばやしの歌声に慰められました。県庁においても県内各地犠牲者之霊に献花させて頂きました。 <31.3.11>



- 楽天イーグルス戸村、田中(和)両選手激励会 <31.1.25>



- スポーツ議連主催でベガルタ仙台激励懇親会。社長、監督、スタッフの参加でした。 <31.3.25>



《地元プロスポーツ振興の 激励会にも参加》

《 12月議会で一般質問、3月議会では 予算特別委員会総括質疑など 》

～3月議会では特に11万筆を超える署名を添えて提出された女川原発2号機再稼働の是非を問う住民投票条例案の賛否が問われ、43年ぶりの連合審査会が開催されるなど最大のテーマとなりました。～



↑代表質問があった日(2/21)と本会議での採決のあった日(3/15)は本会議場の傍聴席は満席、議会1階ラウンジに特別に設けられた中継が流れる傍聴席も満席だったようです。今会期中の傍聴者数は県議会始まって以来最高の人数との議会事務局関係職員の話です。



●一般質問<30.12.7>

- 上工下水コンセッション事業について
- 慶長遣欧使節帰国四百年に向けて
- 発展期における県政の諸課題について
 - 空港の24時間化について
 - 農政にかかわる諸課題について
 - 介護にかかわり、外国人介護人材確保について等。

●総務企画委員会環境生活農林水産委員会連合審査会(3/14)において委員会外委員として「無所属の会」を代表し質疑、発言をさせて頂きました。

総務部長に間接民主主義を補完する機能としての直接民主主義の認識を確認し、～原発を自分ごと化する～自分ごと化会議in松江の直接民主主義の試みを挙げさせて頂きました。松江市には県庁所在地として、日本で唯一「島根原発」があり、10キロ圏内に県庁と松江市役所が在り、1.2.3号機がそれぞれ廃炉、再稼働待ち、新規稼働かという環境下にある処です。大谷共同代表の弁「そう言う私も島根原発から15キロ圏内に住んでいて、地震など災害があるとすぐ「島根原発」のことが心配になります。」～中略～心配と不安を抱く立場と「一方で、私の同級生は頑張って3号機をつくりました。また友人は原発勤務、職場のお得意様は中国電力さんです。」～中略～「こんな身近な原発なのに、身近であるがゆえに気軽に口に出せないという雰囲気か松江にはあるように感じます。だからこそ、いま「自分ごと」にしたいのです。原発に賛成しても反対しても、それを超えて、みんなで幸せに暮らしていけるアイデアを出す「場」＝「自分ごと化会議」を成功させたいのです。」間接民主主義を補完する直接民主主義の在り方を模索、試みようとしている動きがある中で今回の県民投票条例についても「自分ごと化」する大切な機会として実現する事は大事ではないかと、投票実施について賛成の立場で呼び掛けさせて頂きました。結果は報道されてご存知の様に修正案についても否決となりました。

《宮城県全域で深刻化する鳥獣被害対策、国・県・市連携》

～新年度もイノシシ捕獲目標を5,600頭とし、2013年3月末生息数から約4割減少(2024年3月末)させることを目標としています。～

ハード対策 侵入防止策、処理加工施設、焼却施設、捕獲技術高度化施設、衛生管理高度化施設、搬入促進施設(例:ジビエカージュニア)の整備等※1

ソフト対策

- 鳥獣被害対策実施隊、民間団体等による地域ぐるみの被害防止活動※2
- ICT等の新技術実装による「スマート捕獲」の取組
- 都道府県が実施する広域捕獲活動、新技術実証活動、人材育成活動等の取組※3
- 捕獲活動経費の直接支援
- 鳥獣被害対策の地域リーダーや対策の中核となるコーディネーター育成等の研修
- 国産ジビエ認証取得等に向けた支援等、**モデル地区の取組の横展開**
- 全国的な需要拡大のため、プロモーション等への取組を支援等

- ※1 侵入防止柵を自力施工する場合、資材購入費相当分を定額支援。条件不利地は 55/100以内、沖縄は 2/3 以内。
 ※2 実施隊、民間団体、新規地区が取り組む場合、定額支援(市町村当たり 200 万円以内等)。
 ※3 都道府県当たり 2,300 万円以内を定額支援。

「スマート捕獲」の推進

ICTを活用した罠等の実装を通じて、「スマート捕獲」を実現



スマートフォンによる ICT罠の遠隔操作

捕獲の効率化・合理化



捕獲技術高度化施設の整備

捕獲機材の導入

～後援会の皆さんと楽しい交流も～



津軽三味線 数又利夫さん、民謡歌手 加藤節子さんと社中の皆様を招いての「かんま進と仲間たちのビアパーティー」、参加者が舞台にあがったり、舞台前で踊ったりと大いに盛り上がり、楽しく交流する事ができました。

<31.8.24>

後援会等・今後のスケジュール

- **GOGO会ゴルフコンペ<後援>**
令和元年6月5日🍀
グレート仙台カントリー倶楽部 会費3千円
- **かんま進と仲間たちのビアパーティー**
令和元年7月11日🍀 18時30分～ 会費4千円
仙台国際センター2Fレセプションホール「桜」
- **いも煮会**
未定
- **新春の集い**
令和2年3月7日🍀 18時～ 森のパルク 会費4千5百円

今後は7月に参院選挙(4日公示、21日投票日)が予定され、8月には仙台市議選(16日告示、25日投票日)もあり、まだ未定ですが秋には県議選もあり、ビアパーティーは左記の期日となりました。周知の方よろしく願い申し上げます。



千田 勝見 後援会幹事長

事務局だより

今年度は5月から元号も代わり、新天皇陛下即位にかかわる儀式や行事が行われるなど、記念すべき年になりそうです。

佐藤 明子

かんま進後援会連合会

TEL 022-277-1284
 FAX 022-279-4654
 E-mail: kanma@kanma.jp
 〒989-3203 仙台市青葉区中山吉成1-16-1

ホームページ更新中!
<http://www.kanma.jp>



この印刷物は、環境にやさしい
 植物油インキを使用しています。